

年長児が 四季を通じて交流

〜名和地区の四保育所〜

名和地区保育所（光徳、御来屋、名和、庄内）では、今年度から年長児（37人）の交流を始めた。

今年度は、田植えから稲刈りの体験をおして食べ物のありがたさを感じる米作り、発見や驚きが全身で感じられる磯遊び

や、秋の散策・雪遊びなどを行います。

これは子どもたちが、自然に恵まれた身近な環境の中で、四季折々に交流活動を行い、入学までに共通の体験を重ねて、仲間意識を育てることをねらいとしています。

初めての交流では他の保育所

の子どもたちになかなか声がかけられなかった園児も、回を重ねるごとに、だんだん打ち解けて遊ぶ姿が見られるようになりました。

休み明けに「〇〇ちゃんとお店で出会った」と嬉しそうに話す園児。磯遊びで互いに手をパチンと合わせて出会えたことを喜び合う園児たち。稲刈り前に

「あと〇日で、〇〇くんと出会える」と指折り数えて待つ園児。「今度は何して遊ぶの？」と次回への期待に胸を膨らませる園児など、友達同士のつながりが深まっているようすが感じられます。



▲木料海岸には驚きと発見がいっぱいです！



▲みんなで力を合わせて真剣に稲刈り

冬の交流では、光徳保育所の園庭の斜面を利用してそり遊びをします。子どもたちは今から、雪が降るのを楽しみにしています。

ゆったりとした間の中で 〜箏曲ミニコンサート〜



▶二面の箏の音色が優雅に

10月31日（土）、所子の重要文化財門脇家住宅で、秋の一般公開にあわせ、箏曲二重奏による「悠揚の間コンサート」が開かれました。

このように門脇家を会場にコンサートを開くのは初めてのこと。土間や広間など二百四十年の時を感じる空間で、二面の箏が奏でる優雅な音色に、約50人の観客がゆったりと聞き入りました。

百二十人が楽しく鑑賞

〜おはなしコンサート〜

10月24日（土）、名和小学校ふれあいホールで「おはなしコンサート」がありました。門脇めい子さん（所子）の音楽演奏に合わせて、町内の読書ボランティアのみなさんが、わらべうたや読み聞かせを上演。家族連れなど約120人の来場者は、大山の民話に基づいた「大山の天狗」の話や、人形劇「おたまじゃくし海へ行く」などを楽しく鑑賞しました。



▲音楽演奏とわらべうた、読み聞かせを上演